

Weekly Report

(2015年6月第5週)

光世証券株式会社

株式市場概況

● 先週(6/22 - 6/26)の動き

週初から日経平均株価は強い展開となり、水曜日の引け値は2000年4月につけた高値を上抜け、18年ぶりの水準まで上昇した。しかし、その後は合意が期待されたギリシャ支援が、中々決まらず、上値を積極的に買う動きも見られなくなり、小幅に値を下げた。

結局、週末の日経平均株価は前週末比+2.64%の2万706円となった。

今週の強い動きは、まず米国議会でTPAが承認され、TPPの妥結に向け前進したことも好材料となった。ここ最近中国株が軟調であることが要因として挙げられる。年初来で60%強の上昇を見せ6月中旬に高値をつけていた中国株だが、この2週間ほどで高値から20%弱下げるなど、かなりボラタイルな動きとなっている。その不安定さを嫌い、資金が日本に流れ込んできたという面もある。



セクター別では上昇31・下落2となった。上昇率トップは、訪日外国人数予想が上方修正され、空運株への恩恵が大きいとするレポートが目された、空運だった。銀行、保険などがそれに次いだ。銀行は持ち合い株の解消で資金の有効活用による利益増加期待が買い要因となった。

6月に入り、小型が強い展開が継続していたスタイルインデックスだが、リターン・リバーサル動きから、こここのところ下げの大きかったバリューや大型などが買われた。

表1. セクター、スタイル・インデックス動向

セクター動向(先週末比)		各種国内株式指数動向(先週末比)					
空運	6.42%	ゴム製品	-1.47%	コア30	2.82%	ミッド400	1.65%
銀行業	5.91%	石油石炭	-0.33%	TOPIXバリュー	2.72%	マザーズ	1.41%
保険	5.73%	卸売業	0.30%	日経平均株価	2.64%	TOPIXモール	1.19%
その他製品	4.52%	鉱業	0.34%	TOPIXL70	2.39%	東証2部	1.14%
その他金融	4.20%	非鉄金属	0.41%	TOPIX	2.21%	REIT指数	0.66%
証券商品先物	4.11%	ガラス土石	0.45%	TOPIXグロース	1.68%		

今後の注目材料

今年も残すところあと6ヶ月となる。今年前半の日本の株式市場は堅調で、日経平均の上昇率は約18%となった。今年後半の展開はどのように考えるべきか。

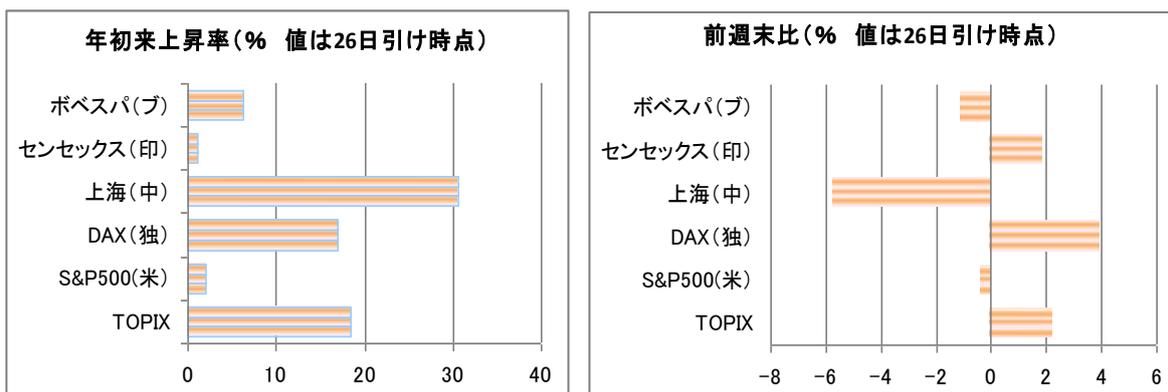
現時点での最大懸念材料は、米国の政策金利の引き上げだ。その時期が市場では話題になっているが、問題はペースだ。イエレン議長はその辺りをはっきりと表明していて、そのペースは「ゆっくりと」としている。そう想定すると、株式から債券への資金の移動はダイナミックには起こらない。このため、米国の金利引き上げは堅調な株価の腰を折る材料とはならないだろう。

日本に目を向けると、東大の日次物価指数が徐々に上昇してきており、景気は改善に向かっている可能性が高い。夏にかけては地方活性化の一つであるプレミアム商品券が発行される地域も多く、国内消費回復を伸ばす要因となるだろう。郵政グループの上場による需給も懸念されるが、MRFの待機資金が多く、それ程問題視すべきではない。それよりも、日本の物価が上昇に向け、インフレ対応を意識した個人の資金が株式市場に流入しやすい環境にある。そういう意味で、預金メインの日本人の資産形成の急速な変化が起こり始める時期となるのではないか。

懸念材料としては中国経済が挙げられる。今年、中国の経済指標はイマイチながら、金融緩和と理財商品の販売中止などから株式市場に資金が流入し、株価は大幅高の展開となっている。株価の上昇が実体経済に好影響を及ぼし、景気が好転するというケースも考えられるが、消費主導でなく投資主導では、そうならず景気悪化に拍車がかかるのではないか。そうなると、中国は世界経済のダウンサイドリスクとして顕在化する可能性もある。

資料

各国の株価動向



株式市場需給動向(6月15日~6月19日分)

投資部門別売買動向では買いが個人、投資信託、自己、事業法人、売りが海外投資家となった。信用買い残高は1,119億円増加した。6月に入り信用買い残高は毎週増加している。

裁定買い残高は1,190億円減少し、3週連続の減少となった。5月末には今年の最高水準を更新し、約3兆8千億の買い残高があったが、一気に2兆8千億となり、今年2月以来の水準まで低下した。

	現物(億円)	先物(億円)	差引(億円)
自己	-33.02	1495.14	1462.12
委託	-154.04	-1609.93	-1763.96
自己・委託合計	-187.05	-114.79	-301.84
法人	252.81	1323.77	1576.58
個人	1346.71	618.18	1964.89
海外投資家	-1846.91	-3536.31	-5383.21
証券会社	93.36	-15.57	77.78
投資信託	21.81	1535.94	1557.74
事業法人	744.16	50.69	794.85
その他法人	164.62	15.10	179.72
金融	-677.78	-277.95	-955.73
生保・損保	-0.46	4.93	4.47
都銀・地銀	37.52	-452.03	-414.52
信託銀行	-692.14	161.16	-530.99
その他金融機関	-22.69	7.99	-14.70

(値はブルームバーグによる)

光世証券 小川 英幸

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。運用方針・資産配分等は、参考情報であり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

光世証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号 加入協会/日本証券業協会